

村尾 信尚

ニュースキャスター

オールジャパンで “下町プラットフォーム”をつくる

目 本の成長戦略を実現するためには、中小企業の力は必要不可欠です。その市場も、もはや国内に限っている時代ではない。そこで今、新たな市場として注目されているのが、欧米でもない、インドネシアやベトナムなどの開発途上国です。

この数年で国内でも海外への事業展開に関心を示している中小企業が急増し、途上国側も日本の高い技術力やきめ細やかなサービスを求めています。途上国でビジネスパートナーを見つけ、自社が培ってきたノウハウを活用して現地の課題解決に貢献する。それが新たなビジネスモデルの一つとして確立する日も、そう遠くはないかもしれません。しかし現状、そのマッチングがうまくできていないのが、一番の問題ではないでしょうか。

日本も政府レベルでさまざまなサポートを始めていますが、どこに行けば情報が得られるのか、どの組織に相談するのが適切なかが分かりにくい状態です。縦割りで情報共有がうまくできていないように感じます。

そこで強みを発揮すべきなのがJICAです。ぜひここは、日本の中小企業の海外展開支援の旗振り役となってほしい。“下町プラットフォーム”とも言いましょうか。途上国の現場に人がいて、情報やネットワークを持っているJICAが中心となり、現地の日本大使館、日本の地方自治体などをまとめて、強い日本をつくってほしいと思います。



**MURAO
Nobutaka**

profile
1955年岐阜県出身。大学卒業後、大蔵省（現財務省）に入省。外務省ニューヨーク総領事館副領事、大蔵省主計局主計官、環境省総合環境政策局総務課長などを歴任。退官後は、日本テレビ「NEWS ZERO」メインキャスター、関西学院大学教授。

ビジネスでアジアとの つながりを切り開く

目 ユース番組のメインキャスターとして、16年間にわたり、国内外のさまざまなビジネスの現場を見てきました。それぞれの国、それぞれの会社に強みはありますが、その中でも日本にはどこにも負けないオンリーワンの技術があふれていると実感します。私たちが便利な生活を送ることができているのも、小さな町工場から生まれた技術のおかげということも少なくありません。

そんな日本の中小企業の技術が海外、最近特に東アジアなどの開発途上国で必要とされています。それにも関わらず、どう市場を開拓すべきか分からず、足踏みをしていることは非常にもったいないと感じます。日本経済をこれから盛り上げていくためにも、中小企業が新たな挑戦をする時代に差し掛かっています。

私は、その仲介ができるのがJICAではないかと思っています。途上国での活動を通じて蓄積してきた情報やネットワークを、中小企業の海外展開支援にぜひ生かしていただきたい。海外でのビジネスは全てにおいて勝手が違いますから、JICAという後ろ盾があれば安心です。中小企業の皆さんが求めているのは、まさにそこではないでしょうか。

私も取材で培ったネットワークを生かし、これからはアジアと日本がビジネスを通じてつながり合えるようなお手伝いできればと思っています。



**KOTANI
Maoko**

profile
1965年大阪府出身。大学卒業後、日本航空に入社。退職後、キャスターとしてNHK総合「モーニングワイド」「おはよう日本」などを担当。テレビ朝日「ニュースステーション」にも参加。98年からテレビ東京「ワールドビジネスサテライト」、2014年より「日経プラス10」のメインキャスターを務める。

小谷 真生子

経済ニュースキャスター